松江市 安来市 愛知県大口町 400年前のご縁 未来に

松江城築城を指揮 堀尾吉晴 ゆかり3市町トップ対談

1600年富田城入城が始まり

戦国武将・堀尾吉晴が結んだ愛知県大口町と安来、松江両市のご縁は、約400年前にさかのぼる。

吉晴は1543年、土豪の子として大口町に生まれた。主家が滅びた後、織田信長や豊臣秀吉に仕え、山崎の合戦や小田原攻めなどで活躍。1600年の関ケ原の戦いでは東軍に付き、敗れた毛利氏に代わって出雲・隠岐24万石を与えられ、息子として地理的、機能的に不向きと判断、亀田山以降、国宝指定は市民の月山富田城へ入城した。

富田城は山城で、出雲・隠岐両国を治める拠点城。城を国宝にする市民の悲願でもあった。

吉晴が結んだ3市町の縁

大手前にある松江開府の祖、堀尾吉晴の銅像 松江市殿町

1年に吉晴は死去した。松江城天守は1935年に当時の国宝保存法で国宝と指定されたが、50年の文化財保護法施行により重要文化財に変更。1941年に松江城の完成年を祝う決め手となる祈禱札が見つかり、15年5月に文化審議会が国宝指定を答申。同7月に正式に国宝となり、交流を進めていた大口町と松江市は同年8月に姉妹都市提携を結んだ。また、安来市が進める富田城整備計画の初年度に当たり、吉晴の業績に再び光が当たった節目の年となった。

口町などから12万8044人分の署名が集まり、10年に文化庁へ再指定を陳情した。

堀尾氏と松江城の歴史

1543年	堀尾吉晴が愛知県大口町に生まれる
1590年	吉晴、小田原の戦いの功により、浜松12万石の大名となる
1600年	関ケ原の戦いの功により、徳川家康が吉晴の長男・忠氏を出雲・隠岐24万石に封じ、吉晴とともに月山富田城に入城
1604年	忠氏が死去、吉晴が孫の忠晴を後見
1607年	松江城と城下町の建設開始
1611年	松江城天守完成、吉晴死去
1633年	忠晴が死去、堀尾家断絶
1867年	大政奉還
1875年	天守以外の建物を取り壊す
1935年	国宝保存法により国宝指定
1950年	松江城解体修理工事着工、文化財保護法施行により重要文化財指定
1955年	松江城解体修理工事終了
2009年	「松江城を国宝にする市民の会」設立
2012年	松江神社で祈禱札を発見
2015年	国宝指定、松江市と大口町が姉妹都市提携

松江城国宝指定について

出席者
安来市 近藤宏樹氏
愛知県大口町長 鈴木雅博氏
松江市長 松浦正敬氏

松江城天守（松江市殿町）が2015年夏、国宝指定され、あらためて築城を指揮した戦国武将・堀尾吉晴（1543～1611年）の功績に注目が集まっている。吉晴は愛知県大口町の生まれで、1600年に出雲・隠岐24万石を与えられ月山富田城（安来市広瀬町）に入城した後、新たな拠点として松江城と城下町の建設を進めた。悲願であった松江城国宝指定が成し2015年は、松江市と大口町が姉妹都市提携を結び、安来市では富田城整備計画が始動。400年前にさかのぼる3市町の「ご縁」が、新たなステージで動き出している。この「ご縁」を将来につなげるには、どうすればよいか。3市町のトップが松江城に集い、大いに夢を語った。

民らは国宝指定の署名活動に協力した。国宝に選ばれておかげで、吉晴の業績に光が当たり、我々にとっても吉晴について、あらためて考えるチャンスを与えてもらった。

近藤市長 吉晴は松江城の完成まで安来市の月山富田城に居を構え、出雲・隠岐地域の中心は安来に移されたと聞いている。松江市とは、ずっと同じ時期に国宝指定が決まり、二重の喜びとなった。

松浦市長 大口町の歯さんには松江を「第二のふるさと」のように感じてもらっている。町民同士の旅行助成に指定してもらった。毎年、大挙して来ていただく光景を見るたびに、いかに松江城が大事かということを気付かせてくれている。

近藤市長 安来市は2015年度から5カ年計画で、月山富田城跡の整備に着手した。城跡を覆い隠す樹木を伐採し、登山道の改修などを行う予定だ。富田城は中国地方で一大勢力を築いた戦国大名・尼子氏の拠点として、幾多の戦いがあった城。堀尾吉晴の功績を広め、後世に伝える効果も、3市町には求められる。

松浦市長 国宝指定プロジェクトは、どこかの時点で頂点が訪れ、落ちていくものだ。松江城やその周辺の調査研究を進め、歴史家、観光振興部局が合同で研究し、吉晴の生涯を一つのストーリーにまとめられればと思う。土台がしっかりすれば、ここ数年の盛り上がりではなく、永続的に交流が進むと思う。吉晴を大河ドラマなどで取り上げてもらうために、そういった取り組みが必要だ。

近藤市長 3市町で交流をはじめ、人が行き来する流れを作るとともに、このご縁を世代とも全国に発信していきたい。松江城国宝指定が発信を大きく後押ししてくれると期待する。

官民の連携について

安来市 近藤宏樹市長

松江市 松浦正敬市長

愛知県大口町 鈴木雅博町長

—堀尾吉晴のつながりを生かし、官民にさまざまな交流の動きがある。2015年夏には松江市と大口町が姉妹都市提携した。

鈴木町長 松江市との交流は民間レベルで活発に行われてきた。松江城ライオンズクラブ（松江市）と丹羽ライオンズクラブ（愛知県大口町、扶桑町）は今年、姉妹クラブ提携20周年となる。それぞれの顔彩会の動きも活発で、お互いに行き来して交流を深めてきた。こうした流れが根付き、松江市との姉妹都市提携が結ばれた。

松浦市長 松江市は、吉晴がそれまで江城を拠点とする近世の平山城で、この二つの城は、大変なご縁があり近世への城の変遷を感じている。おそらく大口町から吉晴に伴って、両市にそのまま居着いたのだ。我々のDNAが息づいているように感じる。

松浦市長 松江は他の城下町と違い、吉晴が築いた当時の掘割り町割りがほぼそのまま残っている。この地が湿地帯だった当時、どんな考えでまちをつくったのか。それをひもとくことで、現代浮かび上がってくるだろう。訪れる人に松江城と富田城跡の両方を巡ってもらう仕掛けをしたい。

—島根県と愛知県を結ぶ定期航空路線就航も、3市町の交流に追い風となる。

鈴木町長 松江市とは既に住民参加のまちづくりについて、意見を交換を重ねており、職員同士の訪問も進めている。我々の町には奥州道鎌倉があり、周辺市町にも面がけ、産業・経済連携にも尽力したい。

近藤市長 安来市はただ「ものづくりの町」だけでなく、金属安来工場を中心に特殊鋼産業が主要産業で、世界へ部品・部材を供給している。金属や工作機械などの製造業が集積する大口町もものづくりの町。松江はプログラミング言語「Ruby」誕生地で、鳥取県の一十関連研究拠点もある。今後、交流を深める中で連携できることがあれば良い。

実戦的な中世の山城、松江城は権力を象徴する近世の平山城で、この二つの城は、大変なご縁があり近世への城の変遷を感じている。おそらく大口町から吉晴に伴って、両市にそのまま居着いたのだ。我々のDNAが息づいているように感じる。

松浦市長 松江は他の城下町と違い、吉晴が築いた当時の掘割り町割りがほぼそのまま残っている。この地が湿地帯だった当時、どんな考えでまちをつくったのか。それをひもとくことで、現代浮かび上がってくるだろう。訪れる人に松江城と富田城跡の両方を巡ってもらう仕掛けをしたい。

—島根県と愛知県を結ぶ定期航空路線就航も、3市町の交流に追い風となる。

鈴木町長 松江市とは既に住民参加のまちづくりについて、意見を交換を重ねており、職員同士の訪問も進めている。我々の町には奥州道鎌倉があり、周辺市町にも面がけ、産業・経済連携にも尽力したい。

近藤市長 安来市はただ「ものづくりの町」だけでなく、金属安来工場を中心に特殊鋼産業が主要産業で、世界へ部品・部材を供給している。金属や工作機械などの製造業が集積する大口町もものづくりの町。松江はプログラミング言語「Ruby」誕生地で、鳥取県の一十関連研究拠点もある。今後、交流を深める中で連携できることがあれば良い。

ご縁をどう生かすか

—松江城と月山富田城、堀尾吉晴の功績を広め、後世に伝える効果も、3市町には求められる。

松浦市長 国宝指定プロジェクトは、どこかの時点で頂点が訪れ、落ちていくものだ。松江城やその周辺の調査研究を進め、歴史家、観光振興部局が合同で研究し、吉晴の生涯を一つのストーリーにまとめられればと思う。土台がしっかりすれば、ここ数年の盛り上がりではなく、永続的に交流が進むと思う。吉晴を大河ドラマなどで取り上げてもらうために、そういった取り組みが必要だ。

近藤市長 3市町で交流をはじめ、人が行き来する流れを作るとともに、このご縁を世代とも全国に発信していきたい。松江城国宝指定が発信を大きく後押ししてくれると期待する。

堀尾吉晴ゆかりの3市町による共同研究に向け、意見を交わす（左から）鈴木雅博愛知県大口町長、松浦正敬松江市長、近藤宏樹安来市長＝松江市殿町、松江城

研究進め価値高める 松浦氏
人の行き来つくろう 近藤氏
功績や生涯共に検証 鈴木氏

ゆかりの名所・旧跡

松江市・松江城

松江城天守各階に見られる「通し柱」。2階分の長さの柱を組み合わせて、建物の荷重を分散させる先駆的な工法だ＝松江市殿町

建物の重み分散「通し柱」

堀尾吉晴が松江市に築いた松江城は2015年7月に天守が国宝指定された。近世城郭の最盛期を代表する荘重雄大な4重5階の構造（高さ約30㍍）で、長大な柱を用いることなく、2階分を貫く「通し柱」を効果的に配置した独特の技法などに特徴がある。

江戸時代初期の1611年の築城時、月山富田城の部材を一部転用したとされ、天守地階に保存されている部材の木口には「富」の文字が刻印されている。

明治維新後、全国で多くの城が取り壊される中、地元の豪農・勝部本右衛門や旧松江藩士・高城権八らの尽力により山陰地方で唯一保存された。旧国宝保存法では国宝指定だったが、1950年の文化財保護法施行に伴い、指定種別が重要文化財に変わった。鳥が翼を広げたような屋根の形から「千鳥城」の別名で現在も親しまれている。

市内では毎春、吉晴とその一行が入城する様子を再現する「松江武者行列」が催されている。

安来市・月山富田城跡

堀尾吉晴が出雲・隠岐両国を治めるため当初、拠点としたとされる月山富田城跡＝安来市広瀬町富田

「松江」以前の統治拠点

堀尾吉晴が出雲・隠岐両国を治めるため当初、拠点としたのが、安来市の月山富田城。標高約190㍍の月山の頂上を本丸とした山城で、全国的な知名度を誇る郷土芸能・安来節とともに、城跡が市民のシンボルになっている。築城時期は定かでない。

城跡の約3分の2に当たる78万平方㍍が国史跡に指定されている。中国地方で一大勢力を築いた戦国大名・尼子氏が拠点を置き、尼子氏の再興を志して戦い続けた戦国武将・山中鹿介ゆかりの城としても知られる。

太鼓を打ち鳴らして兵士を集めた「太鼓壇」や居館があった中腹の「山中御殿跡」に石垣が多く残っており、本丸、二ノ丸のある山頂部も石垣や長さ300㍍以上の曲輪が現存する。

歴史雑誌の城特集で、実戦的な戦国時代の山城の代表的存在として「専門家が選ぶ戦国山城」の部門で1位に選ばれるなど、歴史ファンや研究者の評価も高い。

愛知県大口町・堀尾社

堀尾吉晴などをまつる堀尾社。吉晴の邸宅があったことを示す記念碑も建てられている＝愛知県大口町堀尾跡

吉晴ら祭る 邸宅示す碑も

堀尾吉晴の生誕地・愛知県大口町には、邸宅があったとされる地区にゆかりの地を示す記念碑が建立されているほか、吉晴らをまつる「堀尾社」があり、町民らが毎年例大祭を開いて顕彰している。

堀尾社のマス脇には、吉晴の実子、いとこなど諸説ある堀尾金助とその母の銅像が鎮座。この母子像は同町で語り継がれる母子慈愛の物語のシンボルとなっている。

安土桃山時代の1590年に18歳の金助が、豊臣秀吉の小田原攻めに出陣した際、母親が熱田神宮（名古屋市）付近にあった裁断橋まで見送るが、金助は戦地で死去。母は2度にわたって裁断橋を架け替え、擬宝珠に自らの思いを刻んで金助を供養した。これが母子慈愛の「裁断橋物語」だ。

同町は1996年、堀尾社付近に堀尾跡公園を整備。併せて、都市開発により取り壊されていた裁断橋を公園内に復元した。同公園では毎年4月に「金助桜まつり」が開かれ、多くの人々でにぎわっている。

私たちは、大口町と松江市の姉妹都市交流を応援します。
・大口町建設協力会 ・(一社)丹羽ライオンズクラブ ・(特非)まちねっと大口 ・わくわくおおぐち21

大口町
〒480-0144 愛知県丹羽郡大口町下小口七丁目一五五番地
大口町総務部 電話0587-95-1617